



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったり、パソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～「そまんずし作り」で世代をこえて交流～ 別府校区 年末の恒例行事

別府校区の年末の恒例行事となっている「そまんずし作り」が、12月16日に別府地区公民館で行われ、小学生、中学生、育成会、高齢者など、世代をこえて約150人の参加がありました。「そまんずし」とは、そば（そま）の入った雑炊（ずし）のような料理のことです。別府校区では昔からそばの栽培が盛んで、どの家庭でも



小学生が本格的にそばを打つ

作られていました。別府校区の「そまんずし作り」は1998年から始まり、校区の伝統行事になっています。地域の高齢者や育成者に指導してもらい、小学生はそばを打ち、中学生は野菜を切ります。大鍋3つで煮込まれた汁は、みそ、しょうゆで味付けされ、さば節の香りがするやさしい味わいです。

大鍋から地域ごとに小鍋に分けて、寒い中で食べる「そまんずし」は温かく、参加者はみんなたくさんおかわりをしていました。「そまんずし作り」を通して、賑やかで温かい世代間交流ができました。



「そまんずし」を大鍋から小鍋に分ける

立神小学校では、11月2日に3年生の授業で、昔の道具を使っての体験活動・調べ学習を行い、実際に道具を使って「昔の暮らし」を体験しました。立神地区公民館の青少年講座も兼ねており、立神校区の老人クラブの34名の方々に、千歯こぎ、足踏み脱穀機、唐箕（とうみ）、箕（み）・ふるい、杵つき、石臼ひき、えさくだき、竹細工、お手玉づくり、めぐり棒、かつお節売り、塩作りの12種類の昔の道具の使い方を分かりやすく教えていただきました。

この学習で今と昔の移り変わりを知り、地域に住む先輩たちと触れ合うことにより地域の良さや温かさを感じることができました。

昔の道具を体験するときに使う「稲わら」や「稲の糶（もみ）」「そばの実」などは、老人クラブの方々が毎年準備してくれています。

また、今年も「カツオの腹皮」や「ふかし芋」を料理していただき、おいしくいただきました。子供たちは、郷土食を食べることにより、風土や暮らしの中で継承されてきた枕崎の食文化を味わうこともできました。子供たちの記憶に残る体験活動となりました。



重い石臼を回して そばの実をひく

～12種類の「昔の道具」を体験～ 立神小学校

～地域の方々の協力をいただきながら… 5年生「もちつき」～ 桜山小学校

米の栽培から収穫までお世話になった山崎己代治さんをはじめ、桜山校区老人クラブやJAの方々に協力をいただきました。

見ていると簡単そうに見えるもちつき…。実際にやってみると、「きね」は重く、つき上がるにはかなりの体力が必要であることが分かりました。粒状だった米が少しずつもちの形になっていき、最後は「うす」の中で、一つのきれいなもちの塊になっていく様子は感動でした。

もちを丸める作業もひと苦労でした。老人クラブの方々は大変器用に、そしてきれいに丸めていきますが、そう簡単にはいきませんでした。子供たちは指導していただきながら心を込めて丸めていきました。

完成したもちは、それぞれ持ち帰っておいしくいただきました。

12月15日、5年生32人が自分たちで栽培、収穫したもち米を使って「もちつき」を行いました。今年も、



重い杵を振り下ろして餅をつく

～九九の暗唱をボランティアが お手伝い～ 枕崎小学校

枕崎小学校では、11月22日と12月7日に2年生2クラスの算数の授業で、「かけ算九九の暗唱」を地域のボランティアの方がお手伝いしました。



合格シールを貼ってもらう ヤッターネ!

かけ算九九を覚えるのは、小学2年生のメインイベントと言える学習です。「かけ算あんしょうカード」を使って、一の段から九の段まで覚えられているか確かめをします。今年も枕崎校区の老人クラブの方々が、各クラス3名ずつ、6名の方が2回来校してくれました。

子供たちが九九を暗唱するのを確かめて、できていたら「凄い」「良くできました」と褒めながら合格シールを貼ります。できていなかった子供には「頑張ろうね」「もう少し」などと励ましてあげます。

子供たちは何度も九九の暗唱を聞いてもらいながら、全部の段に合格シールを貰えるように頑張っていました。

～伝統芸能の「駒水ヤンセ踊り」を学習～ 別府小学校

ヤンセ踊りは、別府地区の駒水に古くから伝わる郷土芸能です。別府小では総合的な学習の時間の中で、令和2年度からヤンセ踊りを学び、習得し、地域の方に披露し、後輩たちに引き継いでいく取組を行っています。「駒水ヤンセ踊り保存会」の駒水秋則さんが踊りの学習の時に毎回学校に来て、子供たちに踊りを指導してくれています。

駒水さんは「年々子どもたちが上手になっていてびっくりしました。また、嫌がらずに楽しみながら取り組む姿が本当にうれしいです。」と話してくださいました。

学習成果発表会では衣装と面を着けて踊り、全校児童やたくさんの保護者・地域の方々が見守る中、6年生は堂々と踊りを披露していました。

狩衣姿にキツネや天狗の面をかぶった古式ゆたかな踊りに、観覧の人たちの大きな拍手を受けていました。

別府小学校では6年生13人が10月から11月にかけて「駒水ヤンセ踊り」の学習を行い、11月7日には小学校の学習成果発表会で踊りの披露を行いました。



学習成果発表会で堂々と踊りを披露